

## 支援の輪拡大が課題

前衆議院議員 **大前 繁雄**

平素は何かとお世話になり、大変ありがとうございます。

早いもので娘、大前はるよが県会議員に当選させていただいて、半年が過ぎました。25歳で県会議員というのは、少し若すぎるという不安もあったのですが、この半年の活動振りを見ても、そのような懸念も吹っ飛んだ気がします。

とりわけ、大きな会派なら先輩議員がすべて処理してくれる、知事への「重要政策提言」とか「予算編成に対する申し入れ」を、無所属議員ということで、当選直後から自分で悪戦苦闘しながら取り組んだこと。さらに12月には、早々と本会議場での一般質問に立つなど、この半年間、集中的に試練を克服して行ったことが、大きな成長につながったように思えます。

しかし、まだまだ一人前の県会議員というには未熟で、一層の切磋琢磨が望まれます。とくに、本選挙を見据えた後援会作りは全く手つかずです。これまでは、私の後援会の皆様に大きく依存してきた「支援獲得活動の輪」を、今後は自分自身の力でもっと大きく広げてゆく必要があります。とくに自分と同じ若い層の支持拡大が課題と思います。

「一日も早く、県民そして市民の皆様のお役に立ちたい」と、日々、全力投球する大前はるよに、ぜひ皆様の温かいご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。



2009 海の子園

## 海上スポーツなど海を生かした観光の推進

**【大前議員】** 兵庫県には南北の海という観光資源に恵まれている。このような魅力ある海を生かした観光の推進について、これまでの取り組みや将来展望に関する考えをお伺いしたい。

- 県などが行うさまざまな海辺のイベントと海上スポーツの大会を組み合わせ実施し、県の観光キャンペーンの中にも取り入れることで、「兵庫県のオンリーワン」といえるような観光の目玉を作ってはどうか。(例/ドイツ・キールのヨットパレード)

**【井戸知事】** 観光資源である海を活用したイベントは「あいたい兵庫デスティネーションキャンペーン」での企画も含め積極的に行っており、商品開発も行ってきている。あわせて、全国規模のセーリングカップが開催されている新西宮ヨットハーバーもあり、山陰海岸も、世界ジオパーク認定に向けて大きく動き出すなど、海を核としたツーリズムは将来さらなる発展の可能性を秘めている。今後とも関係機関と連携して、海の魅力を満喫できる多彩な取り組みを推進していきたい。

## 西宮市南部の渋滞解消対策について



**【大前議員】** 今年9月に策定された「渋滞交差点解消プログラム」により、平成25年までに全県渋滞交差点の半減を目指すとしているが、西宮市南部では、指定の渋滞交差点以外にも、甲子園九番町交差点のように日時によっては大変混雑している箇所が見られる。また、平成22年度末には阪急今津線の高架が完成予定となっており、球場前踏切部及び高松町交差点の交通処理の円滑化が必要であると考えられるが、西宮市南部のこのような交差点に対する取り組みも含め、「渋滞交差点解消プログラム」に対して、今後、どのように取り組んでいくのか。

**【河野県土整備部長】** 最新の渋滞実態調査を踏まえ、西宮市南部では鷲林寺町、今津出在家町の2か所を選定した。高松町交差点については、西側で阪急今津線の高架化事業を実施しており、東西方向の直進が可能になることに加え、市事業により球場前線に右折車線が設置されることから交通の円滑化が必要となる。甲子園九番町交差点については、西側で歩道リニューアル工事を計画しており、その中で臨港線の車線を増設することにより、混雑の解消を図ることとなる。また、街路事業や歩道整備等を実施する際には、既存交差点のさらなる渋滞緩和にも配慮するなど、さまざまな面から、安全で円滑な交通が確保されるよう努めていきたい。



## 平成21年12月10日、兵庫県下の最年少議員として一般質問を行いました。

〔兵庫県議会 一般質問〕

## 授産施設・小規模作業所のイベント等への参画について

**【大前議員】** 兵庫県は、障害者施設への優先発注制度の実施や授産活動アドバイザーの派遣など、さまざまな努力をしているが、今後、財政的支援だけでなく、各施設の自立に向けた側面的支援を考えていかなければならない。

- 売れる商品開発の為の取り組み、支援が必要である。(例/学校連携による商品の共同開発)
- 授産施設や小規模作業所が、県などのイベントにもっと参画できるようにしていくべきである。



定例兵庫県議会 一般質問 (平成21年12月10日)

**【井戸知事】** 授産施設の製品の販売拡大のためには、生産品の質の向上とともに、安定した販路の確保が必要である。優先発注制度を実施したり、特色ある新たな商品づくり、指摘のイベント等での共同販売での取り組みなどは大変有効なものだと考えている。また、大学と連携して商品を開発する「スイーツ甲子園」と銘打った製菓商品コンテスト、これを来年の2月、神戸市内で開催する。安定的な販売をめざして物産イベントへの参画を進め、企業内での置き菓子販売、あるいは大型量販店での定例店舗販売の拡充などを進める。

## 地産地消を促す取り組みについて

**【大前議員】** 兵庫産の農作物の調査の基となっている国の市別生産量の算出が取りやめられたそうだが、地域によって農林水産業を取り巻く環境が大きく異なる我が県において、地域ごとのデータというのは今後も必要であると考えられる。

- 地産地消を促す為にも、地域ごとのニーズを把握するために、県独自でデータ収集を行ってはどうか。(例・福井県のような、流通や消費を中心とした、地域ごとの地産地消の状況を把握する新しい取り組み)



**【井戸知事】** 統計調査とは別に農産物直売所、農産加工品、都市と農山漁村の交流人口などを中心として地産地消の推進成果を検証するため、毎年調査し、地域別にデータを集計・分析して実態把握を行ってきた。現在、農林水産ビジョンの見直しを行っており、社員食堂や病院給食の県産品使用割合など新たな指標としてのデータが必要となる項目については、定期的に調査・分析して、県民にわかりやすく情報を発信していく。

大前はるよの一般質問・動画はこちらから

<http://www.hyogokengikai.jp/broadcast/rokuga200912.html>

兵庫県議会では、本会議等の映像をインターネット配信しております。是非ご覧ください。